

# 活動報告

2017年12月3日付号

**日本共産党**  
前市会議員

# とがし豊

皆さんのご意見をお寄せください！発行・日本共産党京都左京地区委員会 電話・761-6341(自宅TEL771-7847)



## 日誌

【11月】1日戦争法廃止を求める左京の会幹事会／3日「左京みんなのデモ」、憲法記念集会&デモ／4日安倍9条改憲NO!左京市民アクション準備会事務局会議／9日世界遺産下鴨神社と糺の森問題を考える市民の会世連話人会／10日日中友好協会京都府常任理事会・理事会／11日錦林PTAふれあい祭(おやじの会・スーパーボールロケット担当)／12日三錦・四錦・錦林の党後援会日帰りバスツアー、消防団査閲練習／14日府民大集市会／15日安倍9条改憲NO!左京市民アクション準備会事務局会議／16日川東体振役員会(グランドゴルフ担当)／18日川東体振買い出し、京都バラ会例会／19日川東学区総合防災訓練、「左京みんなのデモ」→市役所前集会→デモ、党四錦南支部ご苦労さん会／21日フレスコ白川店前宣伝、北泉橋要らない!住民訴訟第3回公判@地裁203号／22日左京市民アクション事務局会議／23日川東体振グランドゴルフ大会、糺の森未来の会「糺の森の今とこれから～ユネスコ世界遺産委員会最新報告、消防団査閲練習」／26日だん王保育園生活発表会／29日戦争法廃止を求める左京の会幹事会／30日PTAふれあいまつりお疲れ様会／

## バスも通らぬ不要不急 北泉橋はいらない!

京都市は九〇年前の都市計画決定を「根拠」に、高野川に「北泉橋」を新設し、工芸繊維大学南東角の門までの道路について住民を立ち退かせ約5m拡幅する工事を強行しようとしています。しかし、市長も交通局もバスを通す見通しを全くもっておらず、周辺住民(特に子ども)は交通事故の危険が増すなど「不要不急」の工事です。

## うごかぬ「証拠」つきつけ 違法な架橋中止を迫る

これに対し、住民側が中止を求め提訴。十一月の第三回公判で住民側は、決定時の都市計画図と現行計画の図面を比較した図(測量士作成)を証拠資料として提出(京都民報一二月三日付詳報)。なんと、橋をかける位置が13・9メートルもズレ、拡幅工事で立ち退きを迫られている地権者の土地は



北泉橋はいらない!住民訴訟原告団を代表する判報告集会和飯田弁護士

## 「民泊」規制強化を

来年六月からの「住宅宿泊事業法」実施に伴い「民泊」への更なる規制緩和が狙われています。その実際の法律の運用に影響を与える京都の条例の検討がはじまっています。京都市は、一月四日に条例制定の骨子(案)を示しており、二月の「市民意見募集」をへて二月

もともと都市計画道路の予定地ではなかったことが判明。もしこのまま京都市が土地収用などの強硬措置をとれば、憲法二十九条で定められた「財産権」への侵害です。国政では、国民の大切な財産に国有地をただ同然で「お友達」に払い下げ、地方では市民の財産を不当に奪う。こんな世の中は、絶対におかしい。



## 11/23「糺の森の今とこれから～ユネスコ世界遺産委員会最新報告」

集会に参加して、森の一部を壊しマンションは立ちましたが、倉庫建設や森中心部の駐車場化の流れはなんとかとめたい!との思いを強くしました。



京都市に厳しい「民泊」規制を求め、申し入れを行う党市議団。

市会に提案の方向。これに対し、党市議団は一月二日、「党市議団の提案」を発表。市の骨子(案)では市民生活に重大な被害を与えている違法「民泊」などを規制するには極めて不十分な内容であることを指摘し、具体的な提案をしています。また、京都市産業観光局に対し、「市民生活を守る立場で厳しい規制条例をつくるべき」と、同提案の内容で申し入れを行いました。引き続き、党市議団やみつなぐが敦彦府議と連携し、私も住民の立場で頑張ります。



## 12/2「哲学の道」の一斉清掃に取り組み。田村会長とともに役員として。

雑記帳・サンタは誰? サンタさんに何をもらうのか? 子どもたちには待ち遠しいクリスマスが近づく。小2の長女の指示のもと、次女・長男・私でせつせと段ボールのツリづくり。「今年のプレゼントはこれにかかっているんやで」「サンタさんは気づいてくれるかな」実は今、錦林小学校の二年生の間では「サンタはお母さんだ」という噂が流れています。堂々とその噂を否定した母の一言を聞いて安心した長女は、サンタさんへのアンケートを実施することにしました。第一問「あなたは子どもですか、おとなですか」、第二問「あなたの普段の仕事は何ですか。①仕事をしていない、②老人の世話、③ろうどう、④その他、第三問・・・。②は明らかに介護職の母親を意識している感じだ。今年のサンタクロースは知事選や地方選に向け忙しいに違いないが、アンケートにどうこたえるのだろうか。万国のサンタよ、団結して、ともに世界平和を。